

平成20年度長期研修報告概要

鳥取県教育センター 教育相談課
長期研修生 西尾 晃彦

1 研究テーマ

「生徒一人一人のやる気を引き出していくための教師のコミュニケーション」
～コーチング的アプローチを使って～

2 はじめに

生徒の自発的な力を引き出すために、また、教師と生徒の信頼関係を築くためには教師のコミュニケーションの仕方を工夫する必要があると考え、本研究に取り組んだ。

3 研究目的

教師と生徒のコミュニケーションを工夫することにより

- ①生徒の自発的な行動を促し、自発的な力を大きく引き出す。
- ②教師と生徒の信頼関係を築く。

4 研究内容

(1) 所属校での実践Ⅰ：部活動でのコーチング的アプローチ

部活動でコーチングを用いた実践を行った。下記は長期目標設定用紙と目標達成のために行う日々の行動を記録させた行動記録である。行動の達成状況の改善のため、定期的に振り返りを行った。

長期目標設定用紙

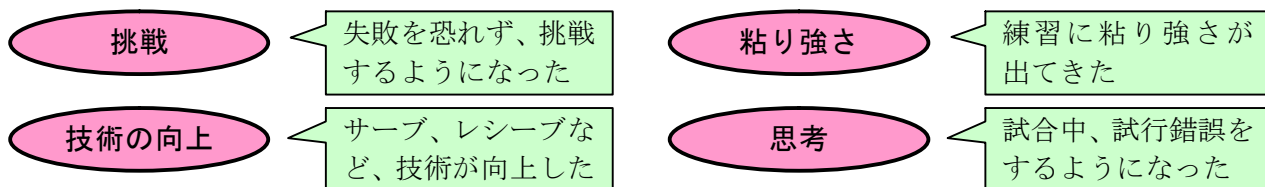
| 八東中学校生徒会 長期目標設定用紙 | | | |
|---------------------|-------------------------|--------|--------|
| 氏名 | 今日の月日 | H20 | 目標達成月日 |
| 成績目標 | (数値の日数) | | |
| | (中身の日数) | | |
| | (絶対達成できる日数) | | |
| 経過目標 | ()月 | ()月 | ()月 |
| 目標達成時の自分 | | | |
| 目標達成により得られる利益 | | | |
| 成功した活動 | | 失敗した活動 | |
| (学業) | | | |
| (部活) | | | |
| (趣味) | | | |
| (学校・家庭生活) | | | |
| 予想される問題点 | 解決策 | | |
| (学業) | | | |
| (部活) | | | |
| (趣味) | | | |
| (学校・家庭生活) | | | |
| 具体的な行動Ⅰ：毎日繰り返してやる行動 | 具体的な行動Ⅱ：いつまでに行うと決めてやる行動 | 期日 | |
| ① | ① | | |
| ② | ② | | |
| ③ | ③ | | |
| ④ | ④ | | |
| ⑤ | ⑤ | | |
| 成功へ導く決意表明 | | | |
| 成功へのセルフトーク | | | |
| 百箇条達成のためにほしい運動/勉強/人 | | | |

日々の行動記録

| チェック項目 | 目標 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 計 |
|------------------|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|
| ① | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ② | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ③ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ④ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑤ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 今日の振り返り、気付いたことなど | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

①生徒の変容

下記は長期目標設定用紙を作成し、2ヵ月後に生徒個々が感じた変容である。



②課題

自ら決めた行動がほとんどできなかった生徒がいた。設定した目標が高すぎると考えられる。目標の見直しをさせ、達成可能な目標設定を再度させる必要を感じた。

(2) 所属校での実践Ⅱ：教師のコミュニケーション観察（承認の様子）

所属校で教師の承認の仕方を中心に授業、朝学活、終学活、学級通信などで観察、調査した。

①生徒の言ったことを繰り返す（授業中）

一例：生徒「○○。」 教師「○○、おもしろいな～。」

「繰り返し」は生徒の言いたいこと・気持ちを承認する効果がある。

繰り返しをすることで、生徒は安心し、やる気を出していた。

② Iメッセージ

Iメッセージとは「私は」を主語にした承認である。気持ちがよく伝わるため、承認されたと感じやすい。授業、学級通信などでIメッセージとして下記の言葉が使用されていた。

| | | |
|-------|----------|----------|
| 心配だった | うれしかった | 気持ちが良かった |
| 感動した | 温かく感じられた | 心強く感じられた |

③承認後の生徒の反応

承認された生徒は喜び、やる気を出していた。また、承認されるのを周囲で聞いていた他の生徒も承認されることを望み、意欲的に授業に取り組んでいた。これは承認の波及効果である。

④改善すべき点

- ・授業中、腕を組んでいた教師がいた。この姿勢は生徒にとって威圧感があるので後ろで手を組んだほうが良い。
- ・忘れ物をした生徒に、「〇〇（道具）は？いけん。必ず持ってくる。」と言った教師がいた。この質問は生徒に考える余地を与えない。生徒に考えさせるためには「忘れ物をしないようにするためには、どうしたらいいかな。」というような質問が良い。このような質問を拡大質問という。
※拡大質問・・・答えが特定できない質問

(3) 所属校での実践Ⅲ：授業でのコーチング的アプローチ

所属校で「承認のスキル」の検証のため、第2学年を対象に英語の授業を行った。

①検証の方法

- ・生徒の活動の場面で、繰り返しやIメッセージを用いた適切な承認や関わり方をする。その結果生じる生徒のやる気や満足感を検証する。

②成果

- ・作業中、生徒Aを承認することにより、隣で聞いていた生徒Bも意欲的に活動した。(波及効果)
- ・授業後のアンケートで、「意欲的に授業に取り組めた」とクラスの90%の生徒が答えた。

③課題

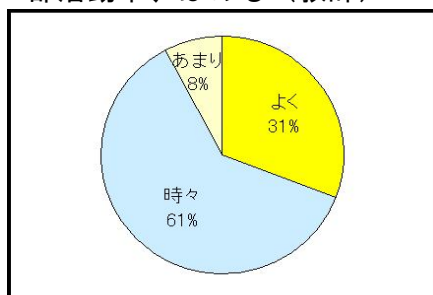
- ・生徒の書いた授業の感想に適切に応える。

(4) 所属校での実践Ⅳ：教師の承認と生徒の受けとめ方のアンケート調査

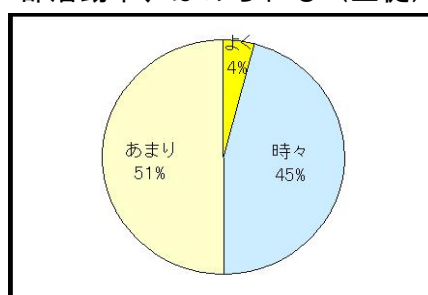
教師の承認と、それに対する生徒の受けとめ方の現状の調査のため、所属校で全校生徒と教師を対象にアンケートを行った。

①アンケートの一部：部活動中の承認

部活動中、ほめる（教師）



部活動中、ほめられる（生徒）



②アンケートの分析

「ほめている」「ほめられている」という点に関して、教師と生徒の意識のズレが見られる。

③今後の手立て

- ・Iメッセージによる承認を増やすしたり、非言語による承認を増やす。

5 研究のまとめ

- ①教師のコーチング的アプローチにより、生徒が行動を自己決定できるようになる。
- ②適切な承認は安心・自信を与え、やる気を引き出す。
- ③生徒の自発的な力を引き出すためには、相手の可能性を認め、お互いが信頼し合うことが大切。

6 今後の課題

部活動のコーチングを行ったとき、最初に決めた目標が高すぎて、その目標達成のための行動を実行できない生徒がいた。目標の見直しをさせ、生徒個々に応じた目標設定をさせる必要がある。

7 おわりに

これまでは「教える」ことに重点を置いていたが、生徒は様々な可能性を持ち、自力で成長できることに気づいた。今後は「育てる」ことにも、しっかり目を向けて、適切な関わり方をしていきたい。頭の中の理解だけではなく、日々の学校教育の中で学んだことを実践していきたい。